

団体名： 聖徳大学

聖徳大学でこの文化庁委託事業を始めたのは、2008 年のことです。この時、私たちが目指した事業コンセプトは「本当に外国人の生活支援になるための日本語指導」について、もう一度、地域日本語教室指導員のみなさんに考えてもらおう、ということでした。と言うのも「文法と単語とをしっかりと指導すれば、日本語は話せるようになる」などの単純な思い込みによる、知識に訴えるだけの「文法説明型授業」や、教養型の「日本語学習熟」のような授業が多く見受けられたからです。



「ボランティア日本語教室の指導はかくあるべきだ!」と、一つの流儀を押しつけることは、もとよりナンセンスです。いろいろな理念や地域での事情もありますから。でも、この文化庁委託事業の『生活者としての外国人』のための日本語教育事業というタイトルに入っている『生活者としての外国人』というコンセプトは、とても重要です。「日本での生活がスムーズにおこなえるための日本語会話力育成」という目標は、地域日本語教室にも共通しています。しかし、そうした

思いと実際の指導内容とが正しく噛み合っていないければ、文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を続けても、その情熱や指導は自己満足の形骸的指導に終始する危惧があります。

本学ではここ数年、言語文化研究所の JSL 教育研究会が中心となって

2008 年度「成人と子どものための日本語教員研修講座」

2009 年度「職業スキルを活用する日本語教師養成講座」「指導方法を助言する上級教師養成講座」

2010 年度「外国人のニーズを重視した地域社会適応型の日本語指導者養成講座」

2011 年度「Can-do 型授業活動を実現するための実践研修講座」

2012 年度「Can-do 型授業におけるポートフォリオの運用研修講座」

2013 年度「生活者支援になり得る日本語授業を具体的にデザインするための研修事業」

2014 年度「文型説明型から Can-do 文例型への発想転換に必要な諸事項を検討する事業」

というように、連続して文化庁委託事業に参加し、事業を積み重ねてきました。一回一回を見ると単発のテーマによる講座のようにも見えますが、実は前年度の研修を踏まえて、徐々にレベルアップをはかろうとする意図があります。また、実際、前年度からの再受講者も多く、長期の目で見れば、数年におよぶ連続講座のようになりました。

主催である聖徳大学言語文化研究所や運営委員も一所懸命取り組みましたが、この一連の講座を支えてくれたのは、やはり受講者のみなさんや外国人日本語学習者の情熱と探求心でした。もとより本当に生活の支えになる日本語会話力を効率的に教えることは簡単ではありません。そうした中で、文化庁委託事業等の国による支援は、精神的な支えにもなっています。そして何より、これを機会に広域な指導者同士の交流の場が提供されることにより、情報交換や問題点の共有、直面すべき課題などが客観的に意識され始めてきています。

事業実施概要

事業名称	生活者支援になり得る日本語授業を具体的にデザインするための研修事業
地域の課題	近年、ボランティア日本語教室の中には、従来の形式的文型指導から「外国人の生活を真に支え得る日本語教育」への転換を推し進めていこうとしていこうとする機運が見られる。しかし、こうした新しい発想や指導法に不安や誤解、抵抗感なども生じている現状があり、最悪の場合は「文型指導中心型」と「Can-do 型」との分断が起こりつつある。
事業の目的	① 外国人の生活行動の支援となる Can-do 型授業の具体的な展開の仕方を研修する。 ② 指導者に“生活支援の日本語指導”という観点が受け入れられる施策を検討する。
事業の概要	日本語教育の実施
	<p>名称：日本語教室「ひろば」</p> <p>目的：会話文の暗記ではなく、その表現で何が出来るようになるのか確認できる。</p> <p>対象：原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人</p> <p>人数：30 人（主な出身・国籍：中国・韓国）</p> <p>時間：週 1 回×2 時間（全 30 回）</p> <p>内容：「授業の目的・手順の明確化」と「授業終わりの段階の振り返り評価(ポートフォリオの概念を用いる評価)」に焦点を合わせ、多くの指導者が共有し得るパターンや留意点を発見していく。</p>
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	<p>名称：Can-do 型授業に基づく教室運営と指導者へのアピール方法を検討する研修講座</p> <p>目的：サバイバル日本語を重視した日本語会話の指導法と評価法を研修する。</p> <p>対象：地域でのボランティア日本語教育に 2 年以上従事している方</p> <p>時間：週 1 回×3 時間（全 10 回）</p> <p>人数：40 人（出身・国籍：日本）</p> <p>内容：本時の授業を学習者が振り返る「振り返りシート」評価の定着によって、教師自身が、日本語指導の本来の目的とその指導方法、そして評価のあり方を模索する。</p>
成果と課題	日本語教育のための学習教材の作成
	<p>名称：Can-do 型授業を導き、その効果を確認する教材</p> <p>目的：① 授業の目標と授業活動の流れを明示する教材を作成する。 ③ 授業の終わりに、学習の要点と成果を自己評価できる振り返りシートを作成する。</p> <p>対象：原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人に向けての教材</p> <p>構成：Can-do 型授業を導くための教材 および「振り返りシート」</p>
	<p>「生活者としての外国人」という観点がボランティア日本語教室の中心となるべき理念であると確認されたが、一方でまだこうした授業を円滑に運ぶための教科書・教材がほとんどないという現状が、ボランティアの指導者たちの活動を停滞させている面があると強く感じた。また、新しい取組に挑戦しようとする活動を、「組織の統一」という暗黙の力が妨げてしまうという問題が最後まで残ることが最大の課題の一つである。</p>

■振り返りシートの例：テーマ「薬を買う」

【 今日学習したこと 】

____年 ____月 ____日 名前 _____

<p>1</p>	<p>あたらしく おぼえた ことば</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教師の読み上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①薬局 ②飲み薬 ③処方箋 ④目薬 ⑤塗り薬(湿布薬) ④ 塗り薬 </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> </div>
<p>2</p>	<p>言ってみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">     </div> <p>A: <u>あのを、虫に刺されました。かゆいです</u>。 <u>何かいい薬はありますか</u>。</p> <p>B: <u>こちらは いかがですか。</u></p> <p>A: <u>じゃ、それにします/ それください</u>。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">      </div>
<p>3</p>	<p>いつくすりをのみますか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <p>しよくぜん ()</p> <p>しよくご ()</p> <p>しゅうしんまえ ()</p> <p>しよくかん ()</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>(a)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(b)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(c)</p> </div> </div>
<p>4</p>	<p>指導者のコメント</p>

◆「振り返りシート」の目的と効用

- ① 学習者自らが本時の授業内容を振り返ることにより、学習の要点、留意点が再認識できる。
- ② 振り返りシート自体が、本時の授業の「まとめ」「意識化」の役割をする。
- ③ 振り返りシートを事前に作成しておくことで、教師自身が本時の目標を明確に意識し、授業の中で学習者につけさせる能力が何であるかという点に留意できる。
- ④ 毎回、振り返りシートを学習者に課すことによって、学習者も授業の構成が明示的に自覚できる。
- ⑤ 振り返りシートの結果を吟味することにより、教師自身が自らの指導の妥当性を反省できる。

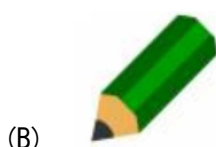
◆振り返りシートの実施形式

※初級段階では、以下のような設問レベルは学習者が能力的に対応できないため、避ける。

- ・ ○○○の意味を書いてください。×
- ・ ○○○についてどう思いましたか？ ×
- ・ 授業の感想を書いてください。×
- ・ 何か質問があったら、書いてください。×

初級段階では、以下のような設問形式を用いる。

- ① 教師の口頭指示・質問によるもの → ex. 「～てください」「～ですか？」
- ② シートの文字表記によるもの → ex. 「～は、A～Fのどれですか？」
- ③ シートの視覚的媒体(絵図など)によるもの



- ④ ジェスチャー・レアリアの使用
- ⑤ 学習者の感想・質問・要望(初級は選択形式、初中級で定型の作文)

◆教師の留意点と役割で、良いと思われた扱い方

- ① 良い点を取らせるように心がける(直前にシートでやる項目の確認をしてもよいくらいに)
- ② 開始時期には、教師が口頭でシートの扱いを促していくのが効果的だった
- ③ 時間配分は厳守する(回答時間を必要以上に延長しなくてもよい=目的が客観的評価であるため)
- ④ 全員がいっしょにやる項目と、各自で交互にやる項目とに分けた方がうまくいった
- ⑤ 実技については教師がチェックする(シートには、教師の課題事項を書いておく方がよい)
- ⑥ 点数化・段階化で評価するようにする(曖昧な記述評価ではダメ)

◆振り返りシートに対する教師のフィードバック(反省の視点)

- ① 指導手順 ・ 一般的展開手順 ・ 振り返りシートとの関連
- ② スキット提示の問題 ・ 意味の示唆 ・ スキット提示の意義
- ③ 練習のさせ方 ・ 練習の手順 ・ 練習の目的と方法
- ④ 学習者との対応の留意点 ・ 授業時の学習者との応答について ・ 学習者のレベル差への対応